

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和4年6月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 I - 1
- 2. 工事の実施状況 I - 2
- 3. 調査結果の概要 I - 3

II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） II - 1

I 事後調査の概要

1. 調査概要

令和4年6月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査として令和4年度は令和4年5月、6月、8月、令和5年2月に実施する。

表-1 事後調査の概要（令和4年6月）

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）表-1

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	6月5日、8日	4回／年(3年毎に実施) (5月、6月、8月、2月)

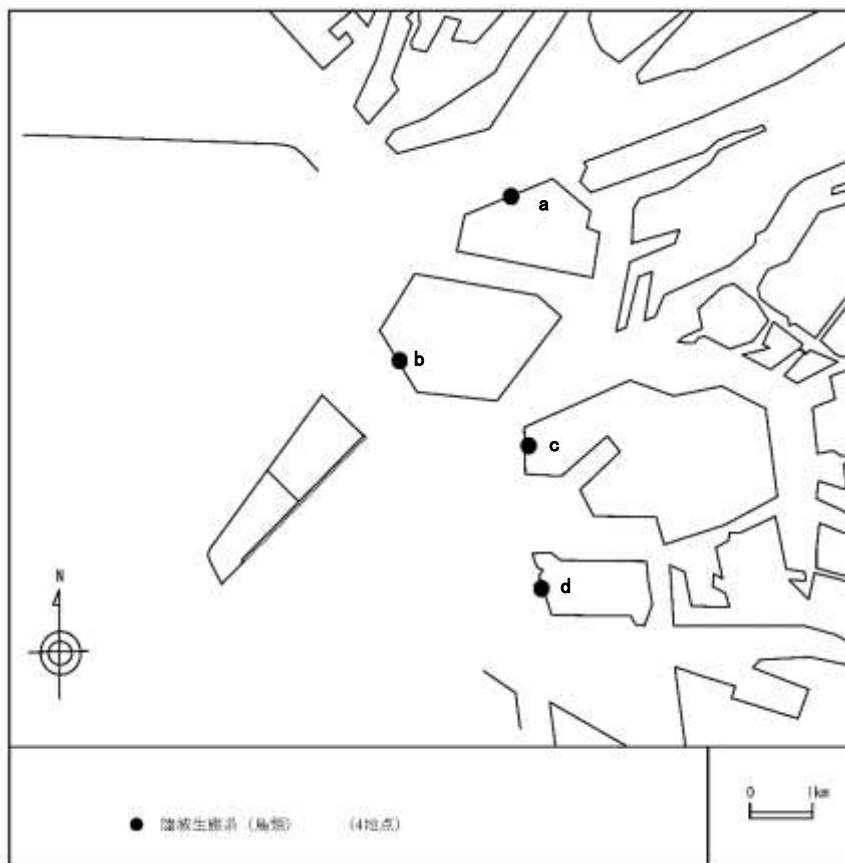
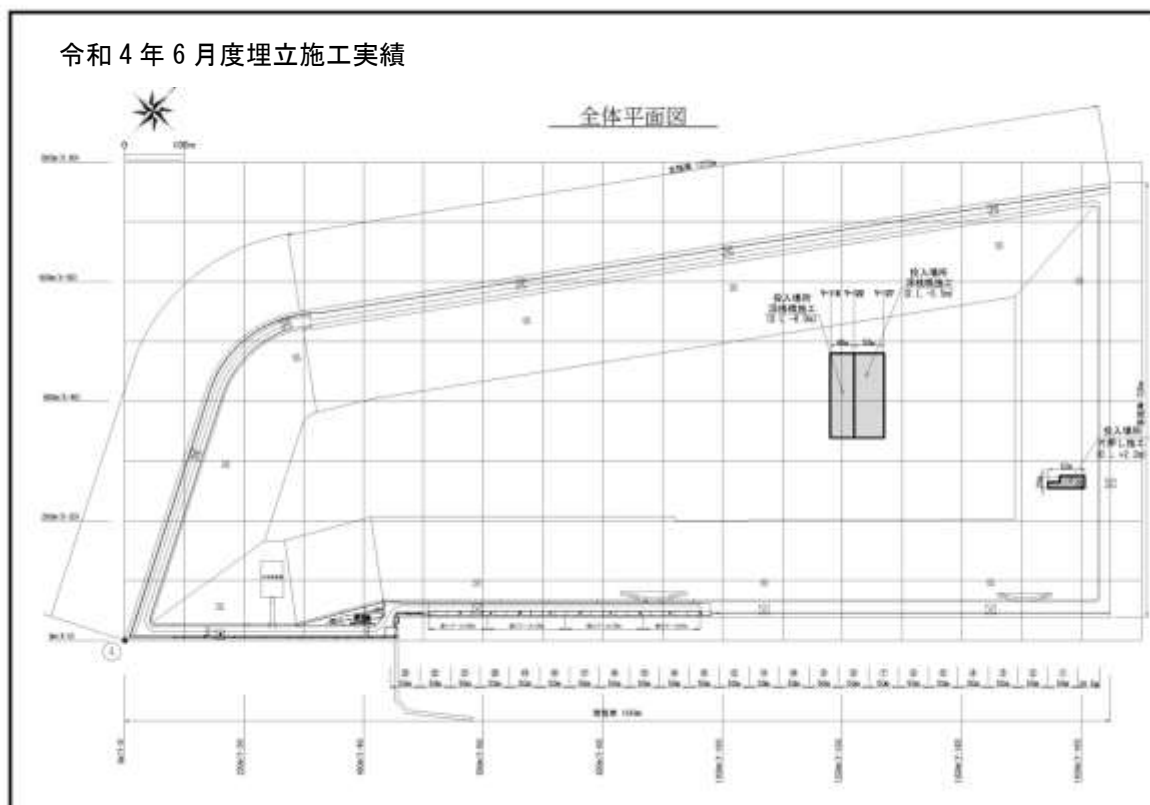


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（令和4年6月）

2. 工事の実施状況

令和4年6月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋立量(m ³)	進捗率(%)
6,580,915	47.1

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で7目18科29種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く88羽であり、次いで調査地点dの50羽、調査地点cの22羽、調査地点aの20羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点bが最も多く21種であり、次いで調査地点aの9種、調査地点cと調査地点dの8種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、スズメ（スズメ目スズメ科）、シロチドリ（チドリ目チドリ科）、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、カイツブリ（カイツブリ目カイツブリ科）、キョウジョシギ（チドリ目シギ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、ツバメ（スズメ目ツバメ科）、トウネン（チドリ目シギ科）であった。

事業実施前（平成10年6月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）に実施した6月の結果は、4地点合計で9目19科26種であり、本年度は事業実施前と比べて種数がやや多くなっていた。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分	平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月	
出現状況	目	8	8	10	9
	科	18	17	21	19
	種	35	37	37	26
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ (35.4%)	ヒドリガモ (18.1%)	トウネン (32.2%)	ムクドリ (42.6%)	
	トウネン (27.2%)	ホシハジロ (11.0%)	コアジサシ (8.4%)	スズメ (12.3%)	
	カワウ (8.8%)	キンクロハジロ (7.6%)	シロチドリ (7.3%)	ツバメ (12.3%)	
	カルガモ (7.1%)	カワウ (6.1%)	アジサシ (4.5%)	コアジサシ (9.6%)	
	スズメ (4.5%)	スズメ (5.0%)	ハシブトガラス (4.3%)	ドバト (6.5%)	

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

II 事後調查結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和4年6月分〕

調査日：令和4年6月5日、8日

No.	目名	科名	種名	渡り区分	地点別出現個体数					
					a	b	c	d	計	
1	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥	1	3			4	
2			ホシハジロ	冬鳥		1			1	
3	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥		6	2		8	
4	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	2	2	9	8	21	
5	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥			1	1	2	
6	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥		1			1	
7			シロチドリ	留鳥		18			18	
8			オオメダイチドリ	旅鳥		2			2	
9		セイタカシギ科	セイタカシギ	旅鳥		1			1	
10		シギ科	アカアシシギ	旅鳥		1			1	
11			アオアシシギ	旅鳥		2			2	
12			キアシシギ	旅鳥		2			2	
13			キョウジョシギ	旅鳥		3			3	
14			トウネン	旅鳥		3			3	
15			カモメ科	ユリカモメ	冬鳥（一部留鳥）		2			2
16		セグロカモメ	冬鳥					1	1	
17		コアジサシ	夏鳥	2	12	1	20	35		
18		アジサシ	旅鳥					10	10	
19		タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥	1				1
20			タカ科	トビ	留鳥			2		2
21		スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	留鳥	1	1			2
22				ハシブトガラス	留鳥	3		2	2	7
23			ツバメ科	ツバメ	夏鳥		3			3
24	ヒヨドリ科		ヒヨドリ	留鳥	2		3		5	
25	ヨシキリ科		オオヨシキリ	夏鳥		2			2	
26	ムクドリ科		ムクドリ	留鳥	3	2	2		7	
27	スズメ科		スズメ	留鳥	5	20		5	30	
28	セキレイ科		ハクセキレイ	留鳥		1			1	
29	アトリ科		カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）				3	3	
合計（7目18科29種）				目数	5	5	6	4	7	
				科数	8	13	8	6	18	
				種類数	9	21	8	8	29	
				個体数	20	88	22	50	180	

注）1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和3年度生物リスト」（国土交通省 2021）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（（財）日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和4年6月分]

調査日：令和4年6月5日、8日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	5	5	6	4	7
	科	8	13	8	6	18
	種	9	21	8	8	29
出現個体数		20	88	22	50	180
主な出現種 (個体数、組成比率)		スズメ (5羽、25.0%) ムクドリ (3羽、15.0%) ハシブトガラス (3羽、15.0%) カワウ (2羽、10.0%) コアジサシ (2羽、10.0%) ヒヨドリ (2羽、10.0%)	スズメ (20羽、22.7%) シロチドリ (18羽、20.5%) コアジサシ (12羽、13.6%) カイツブリ (6羽、6.8%) キョウジョシギ (3羽、3.4%) カルガモ (3羽、3.4%) ツバメ (3羽、3.4%) トウネン (3羽、3.4%)	カワウ (9羽、40.9%) ヒヨドリ (3羽、13.6%) ハシブトガラス (2羽、9.1%) トビ (2羽、9.1%) カイツブリ (2羽、9.1%) ムクドリ (2羽、9.1%)	コアジサシ (20羽、40.0%) アジサシ (10羽、20.0%) カワウ (8羽、16.0%) スズメ (5羽、10.0%) カワラヒワ (3羽、6.0%)	コアジサシ (35羽、19.4%) スズメ (30羽、16.7%) カワウ (21羽、11.7%) シロチドリ (18羽、10.0%) アジサシ (10羽、5.6%)

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和4年6月分〕

調査日：令和4年6月5日、8日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	スズメ科	1	25.0%	1	チドリ科	3	23.9%
2	カラス科	2	20.0%	2	スズメ科	1	22.7%
3	ムクドリ科	1	15.0%	3	カモメ科	2	15.9%
4	ウ科	1	10.0%	4	シギ科	5	12.5%
4	ヒヨドリ科	1	10.0%	5	カイツブリ科	1	6.8%
4	カモメ科	1	10.0%	6	カモ科	2	4.5%
7	ミサゴ科	1	5.0%	7	ツバメ科	1	3.4%
7	カモ科	1	5.0%	8	ウ科	1	2.3%
				8	ヨシキリ科	1	2.3%
				8	ムクドリ科	1	2.3%
				11	セキレイ科	1	1.1%
				11	カラス科	1	1.1%
				11	セイタカシギ科	1	1.1%

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	40.9%	1	カモメ科	3	62.0%
2	ヒヨドリ科	1	13.6%	2	ウ科	1	16.0%
3	タカ科	1	9.1%	3	スズメ科	1	10.0%
3	カイツブリ科	1	9.1%	4	アトリ科	1	6.0%
3	ムクドリ科	1	9.1%	5	カラス科	1	4.0%
3	カラス科	1	9.1%	6	サギ科	1	2.0%
7	カモメ科	1	4.5%				
7	サギ科	1	4.5%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。